



令和 5年 3月 15日 第113号
瀬波中町 役員会 (文責: 田宮)

町内総会が終わる

2月26日(日)午後 1 時 30分から令和 5年度の通常総会を開きました。時折雪の舞う寒い日でしたが、出席者は35名(委任状64で合計99名)の皆さんで行われました。今年の議長は3組の平野吉和さんをお願いし、議事が進められました。

新役員に**公民館長の大西寿峰さん**が承認されました。

今年の総会では活発な意見をたくさん頂くことができました。提案された議案は一部を除き原案どおり承認・可決され、ようやく令和5年度の中町がスタートしました。一部の協議事項については役員で協議し結果をお知らせして行きます。

《新しく決まったこと》

役員会の取組

I 恒例行事、伝統行事の継承・継続

左議長、地蔵様、運動会、避難訓練、環境美化活動

II 令和6年度の「町内会」への引継ぎと手順書づくり

- ① 2年間の振り返りと、恒例行事の手順書づくり。
- ② 屋台等修繕申請の手順書づくり。
- ③ 公民館建屋修理申請の手順書づくり
- ④ 会計処理の簡潔化提案

III 自主防災・防犯会活動

- ① 「共助」から「自助」への取組。
 - ・ 「自分を守る」行動指針の発信
 - 地元に暮らす方からの知見・経験を共有する。
 - 防災マップの活用を勉強する。
- ② 「自助」を助ける「互助」を考える。
- ③ 「避難訓練」の継続



「春の夜籠り」8組の有志で開催

3月5日(日)に公民館で「春の夜籠り」が8組の有志5名が集まり行われました。

夜籠りは町内の皆さんがお互いに「絆を深める」大切な場にもなっていて、例年であればお弁当を皆さんで頂き、楽しいひと時を過ごすそうですが、今回もコロナ禍のため、少し寂しい夜籠りになりました。

「秋の夜籠り」からは町内の絆を深める交流の場として、たくさんの方から参加していただける会にしていきたいものです。



戻ってよかった

弘化4年（1847）12月10日村上町の林善右衛門・風間四郎右衛門から瀬波町年寄伊与部源蔵と治右衛門宛てに一通の連絡があった。

中町善福寺のから「のに入った巾着(きんちゃく)」を村上で落としたという届出が村上町にあった。このときに話は聞いたが、なお念入りにそのことを聞きたいので、明日11日に村上町随役宅まで善福寺の和尚様と一緒にお願いしたい。

11日年寄治右衛門と善福寺の和尚様が風間四郎右衛門宅まで出向き、落とした金子を受け取った。その内訳は下記のとおりである。（「差し入れ申す一札の事」として役場へ「受取」を出した）



1 金 2両2朱也※

この訳 ① 1分銀1 包み1つ ② 1分銀2匁 包み1つ

③ 1分銀包まず1つ ④ 金1分 包み1つ

⑤ 金2 包み1つ 以上2両2朱

鹿皮の巾着へ入れ候分 根付けは象牙也

※1両=100,000円くらい 1朱=5,000円くらい

2両2朱=210,000円くらい

※左は江戸時代の巾着と根付けである。（イメージ）

善福寺の和尚様はこの金は間違いなく自分が落とした金であるという一筆を入れて、瀬波に戻った。その内容は以下のとおりである。

この^{きんす}金子は12月9日朝に加賀町稲荷堂の前で自分が落としたものである。それを加賀町^{またうえもん}又右衛門の「もり子」が拾ったと聞いたが、これは自分が落とした金子なのでもらい受けたいと村上町役場に願い出た。このことは間違いなことである。もし、後日他人が自分が落とした金子だと名乗り出たら、自分が出かけていって、その人に申しひらきをする。瀬波町の町役人の立会のもとで確かに金子は受け取った。念のために文書にした。

未12月11日

瀬波町 善福寺印

瀬波町大組頭 ^{おおくみがしら} 栄助印

村上町大年寄役場

上記の話が「弘化4年御用日記帳」に出ていた。善福寺の大俊和尚様がどのような用事で大金を持って村上町に出かけたのかなど、詳しいことは出ていない。

それにしても加賀町の「もり子」が拾い、それを又右衛門が正直に役場に届け出たために大金が善福寺に戻ることで本当によかった。なお、この「正直なもり子と又右衛門」に善福寺がいくらかの謝礼をしたかどうかは今となっては分からない。

町内の
ホームページ



<https://oyoshi3232.wixsite.com/senami-nakamati>